

平成25年度「学校教育ICT活用事業」モデル校

大阪市立阿倍野小学校 第2回公開授業 資料・指導案集

ICTを活用した問題解決的な学び**公開授業**

学年 教科	単元・内容	使用ICT機器	授業者	場所	頁
1年生 生活	あきって 気持ちがいいね	電子黒板	小澤 里美	南2階 1-1	3
2年生 音楽	いろいろな音に したしもう	電子黒板 iPad	春山 陽子	南2階 2-1	7
3年生 総合	What color is this?	電子黒板 iPad	石井 優子	西2階 3-2	11
4年生 理科	空気や水をとじこめると	電子黒板 iPad	別所 英文	北2階 4-1	15
5年生 国語	伝えよう、委員会活動	電子黒板 iPad	河野 悦子	西3階 5-1	19
6年生 算数	比例と反比例	電子黒板 iPad 書画カメラ	笹井 謙	北3階 6-1	23
特別支援 国語	詩を 読もう (※)	電子黒板 iPad mini	玉城 明子	南2階 プレイルーム	27

※ 特別支援学級の公開授業・分科会は、「がんばる先生支援」個人・今日的課題研究校として実施します。

分科会

分科会	会場	内容
1・2年	南2階 2年2組	○ 各学年の公開授業について ・ ICT活用のポイント ・ 質疑応答 等
3・4年	西2階 3年1組	
5・6年	西3階 5年2組	
特別支援	南2階 プレイルーム	

全体会

○ 本校の取組み

○ 講演

「ICT活用と活用型授業の交差点」
大阪教育大学教授 木原 俊行 先生

参観者の皆さまへ

本日は、本校の公開授業にお越しいただき、ありがとうございます。

参観にあたって、次の点にご留意ください。

1. 授業も含めて、**校内の写真撮影・ビデオ撮影**は、次の点をお守りいただくことを前提に許可します。
 - 子どもの顔は、なるべく撮らないようにしてください。
 - フラッシュは使用しないでください。
 - 撮影した写真や動画は、個人または、所属する機関での研究目的にのみ使用してください。
 - 子どもや教職員が特定できる写真や動画を、ネット上にアップしないこと。これについては、いかなる理由があっても許可できません。
 - 授業風景を動画配信サイトなどにアップしないこと。
 - 教室内の作品についても、個人が特定される原因となりますので、同じ扱いとさせていただきます。

※ 撮影された被写体に係る肖像権に関しては、本人並びに本校に属しております。注意事項に反し、または非社会的な目的に利用された場合は、法的な手段により取り下げを要求します。
2. 授業中にむやみに子どもに接近するなど、子どもの注意力を阻害するような行動はお控えください。
3. 教室はたいへん混み合います。入口付近に固まらず奥にお進みください。
4. 携帯電話、スマートフォンはマナーモードにしてください。
また、「Bluetooth」「Wi-Fi」機能をオフにしてください。
5. 授業中、ICT 機器などが動作不良になった場合、指導者の判断で使用を中止し、授業をすすめる等もありますので、ご理解ください。
6. 休み時間等では、子ども達の動線にお心遣いください。

研 究 の 概 要

1. 研究主題と主題設定について

研 究 主 題
「ともに学び合い、学びを深める子どもの育成」
—ICT を活用して、教育の質を高めよう—

本校の目指す子ども像＝「主体的に問題に取り組み、協働的な学びを通して、自分の考えをしっかりと持ち、それを豊かに伝える子ども」

上述のような子どもを育成するために、以下の研究仮説を設定する。

＜研究仮説＞

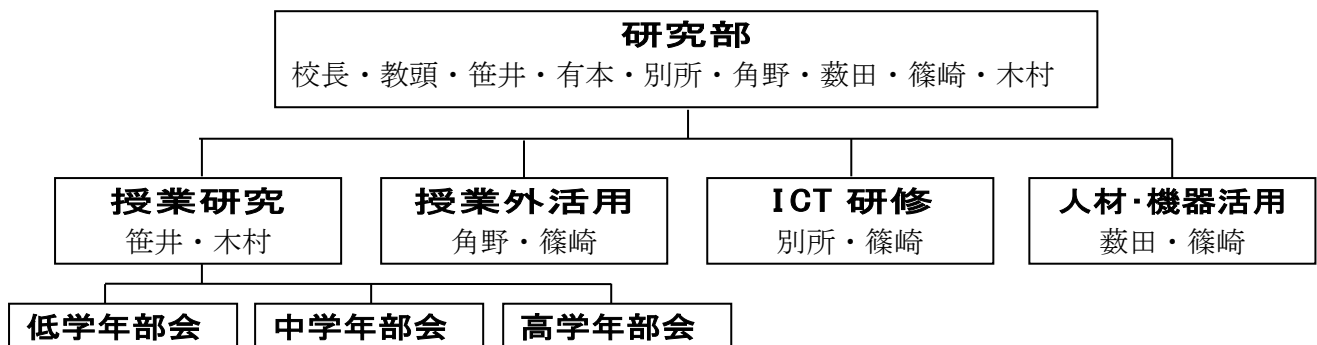
- ① 問題解決的な学習活動の各段階で、効果的、効率的に ICT を活用して学習活動の充実を図ることにより、子どもの問題解決活動がより主体的になり、協働的な学びを深め、表現力を高めることができる。
- ② 授業以外の多様な学校生活の場面で ICT を活用することにより、基礎的な学力の向上や、子どものさまざまな学びの過程の記録に寄与し、学びの質を高めることができる。
- ③ 指導者が ICT を効果的に活用するスキルを高めたり、ICT に関する機器や人材、運用上の約束事を整備したりすることにより、上記 2 点の仮説を基に効果的に研究を進めることができる。

上述の研究仮説を受けて、以下の 4 つの研究の視点を設定する。

＜研究の視点＞

- ICT を活用した授業づくり
 - ・問題解決的な学習の中のどの場面で ICT を活用し、どのような効果を狙うか
- 授業以外での ICT の活用
 - ・どんな場面(朝、家庭学習、校外活動…)で、どのように活用できるか
- 教員の ICT 研修
 - ・いつ(定期的、適宜、長期休業時…)、どこで(校内、他校、他施設…)、だれが、どのように進めていくか
- ICT に関わる人材・機器の運用

2. 研究の組織について



- ・上記とは別に、教職員全体で共通理解を図る特別委員会として、研究推進委員会(研究部・学年主任・特別支援教育コーディネーター・習熟度担当(1名))と研究全体会(全教職員)を設置する。

3. 研究の内容について

授業研究

＜ICT を活用した授業づくりの基本的考え方＞

○ 問題解決的な学習の流れ

子どもの主体的な学びを実現するために、単元構成や授業の学習過程において、問題解決的な学習の流れに沿って構成することを基本とする。**導入**:「学習問題の設定」＝**展開**:「学習問題の追究～解決」＝**終末**:「学習問題の結論の吟味」の3段階を基本的な流れとする。

○ ICT 活用のねらい

問題解決的な学習の3段階の流れの中の、「どの段階」で「どんな力」をつけさせたいかを考え、そのために有効な ICT の活用法を模索する。

【問題解決的な学習の基本的流れ】

【ICTを活用する主なねらい（例）】

導入

①学習問題を設定する場面

- ・ 学習問題に気づく
- ・ 学習問題に対して予想する
- ・ 予想を確かめる方法を考える

展開

②学習問題を追究～解決する場面

- ・ 必要な資料を収集し、分析する
- ・ 実験や観察、調査などに取り組む
- ・ 明らかになったことを整理する

終末

③学習問題の結論を吟味する場面

- ・ 個々が解決したことを発表し合う
- ・ 学習問題に対する考えをまとめる
- ・ 残された課題を明確にする
- ・ 実践化を図ったり、別の事象にあてはめたりする

○ 疑問や驚きなどから問題意識を高め、問いを内発させることができる

○ 学習問題を探求しようとする関心・意欲を高めることができる

○ 学習問題に主体的・意欲的に取り組むことができる

○ 協働的な学びを深めることができる

○ 追究活動を効率的に進めることができる

○ 学習内容をより深く定着させることができる

○ 表現力を高めることができる

○ プレゼンテーション能力を養うことができる

第1学年 生活科 学習指導案

授業者 小澤 里美

《ICT の活用》

授業の場所	■普通教室 □特別教室 □体育館 □運動場 □その他（ ）
授業形態	□講義形式 ■一斉学習 □グループ学習 □個別学習
ICT 活用の場面	■導入 ■展開 □まとめ
ICT 活用者	■指導者 ■児童 □その他（ ）
ICT 活用の目的	■資料の提示(指導者) ■資料の提示(学習者) □自分の考えをまとめる □グループの考えをまとめる □他者との考えの比較・交流 ■学習内容を調べる □自分の考えを表現する ■学習の振り返り ■記録(写真・動画等) □プレゼンテーション等の作成
活用機器	■電子黒板 □指導者用タブレット端末(iPad) □児童用タブレット端末(iPad) ■その他(書画カメラ)
活用コンテンツ等	○ 写真ファイル・動画ファイル
ICT 活用のポイント	○ 電子黒板で前時の記録を提示することにより、前時の学習を明確に想起し、思いを全員で共有する。 ○ 電子黒板での資料提示により、より分かりやすく発表する。

1 学年・組 第1学年1組 計30名

2 場 所 1年1組教室

3 単 元 名 「あきって 気持ちがいいね」

4 目 標

- 校庭や公園の様子を春夏と比べ、季節が秋に変化したことを感じ取ることができる。
- 自然物を使った遊びを工夫したり、自分たちの生活に役立つものを飾ったりして秋を楽しむことができる。
- 諸感覚を通して見つけた季節の変化を発表し合い、気付きを友だちと共感・共有することができる。
- 今まで調べたことや作った作品を利用して、「あきまつり」を楽しむことができる。

5 単元の評価規準

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
自分が見つけた秋について話したり、調べたりしている。 自然物を使って、遊んだり作品を作ったりしようとしている。 秋みつけ発表会に意欲的に取り組もうとしている。	諸感覚を使って、身近な自然を観察している。 自然物の形や色合いを生かして教室を飾ったり、遊んだり、見つけたことや感じたことを絵や文章で表したりすることができる。 相手に分かりやすく発表したり、クイズなどを工夫して作ったりすることができる。	草木や生き物などから、季節が変化していることに気付いている。 作ったり遊んだりしながら、自然物の不思議さや面白さに気付いている。 発表やクイズなどを通して秋らしさを感じ取り、季節の変化に気付いている。

6 指導計画（全 16時間）

次	時	主 な 学 習 活 動	I C T活用のポイント
1	1 2	<ul style="list-style-type: none"> ・季節が春・夏と比べて、変わってきたところについて話し合う。 ・校庭に出て、実際に季節が変わってきていることを感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板で、春夏の自然の様子を提示することで、秋との違いを感じ取る。 ・みつけた秋をデジカメやiPadのカメラ機能を使って撮影し、皆で共有する。
	3 4	<ul style="list-style-type: none"> ・「あきはかせになってあきをたのしもう」の計画をたてる。 ・校庭を探検し、みつけた秋について調べ、発見カードに記録したり、「あきマップ」をつくったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・みつけた秋を図鑑やiPadのインターネットで調べることができるようにしておく。
2	5	<ul style="list-style-type: none"> ・大泉緑地で「あきさがし」をするための計画をたてる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板で大泉緑地の園内マップなどを提示して計画をたてる。
	6 7 8 9	<ul style="list-style-type: none"> ・大泉緑地で「あきさがし」をする。（校外活動） 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童がみつけた秋を指導者がiPadのカメラ機能で記録する。
3	10 11	<ul style="list-style-type: none"> ・見つけた秋について「けんきゅう」し、みんなに伝える準備をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見つけた秋を図鑑やiPadのインターネット、電子事典で指導者と一緒に調べる。
	12 13 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・「けんきゅう」した秋をクラスの友だちと伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板や書画カメラを使って、記録した写真や動画、発見カードなどを提示する。
4	14 15	<ul style="list-style-type: none"> ・集めた木の実や落ち葉など自然物を使って遊んだり、生活に役立つものを作ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道具の使い方や作り方を電子黒板に提示することで、より理解しやすくする。
5	16	<ul style="list-style-type: none"> ・「あきまつり」を開いて、「見つけた秋」を伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板や書画カメラを使って、記録した写真や動画、発見カードなどを提示し、わかりやすく発表するための資料とする。

7 本時の学習

(1) 目標

- 諸感覚を通して見つけた季節の変化を発表しあい、気づきを友だちと共感・共有することができる。

(2) 展開

	主な学習活動	I C T活用のポイント	使用機器・コンテンツ	評価の観点
導入	○ 前時の振り返りをする。	・ iPad のカメラ機能で撮影した前時の記録を提示することで、前時の学習を明確に想起する。	電子黒板 ・ 前時の記録(写真ファイル)	【生活への関心・意欲・態度】 ・ 秋みつけや発表会やクイズ作りなどに意欲的に取り組もうとしている。(行動・カード)
	あきみつけはっぴょうかいをしよう			
	○ 発表し合うときの話す・聞くのルールを確認する。			
展開	○ 見つけたり感じたりした秋を発表する。 ・ 自分たちで考えた方法で発表する。 ・ 見つけたり感じたりしたことを6つの観点で分類する。(感じた・見た・さわった・聞いた・におった・味わった)	・ 電子黒板や書画カメラを使って記録した写真や動画、発見カードなどを提示し、わかりやすく発表するための資料とする。	・ 電子黒板(写真・動画ファイル) ・ 書画カメラ	【活動や体験についての思考・表現】 ・ 相手にわかりやすく発表したり、クイズなどを工夫して作ったりすることができる。(行動・発言・作品)
	○ 「あきはかせ」に質問したり、よかったところを伝えたりする。			
まとめ	○ 6つの観点で分類した秋をもう一度確認し、諸感覚を通して見つけた季節の変化を共感・共有する。 ○ 発表したことを活かして「あきまつり」をする見通しを持つ。			【身近な環境や自分についての気づき】 ・ 発表やクイズなどを通して秋らしさを感じ取り、季節の変化に気付いている。(発言・対話)

(3) 板書計画

あきみつけはっぴょうかいをしよう

プログラム

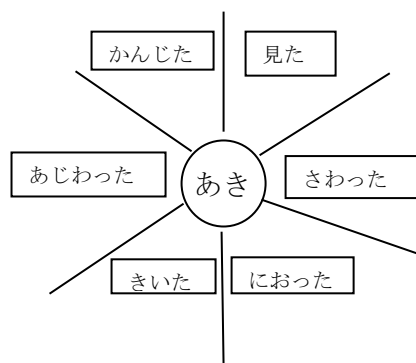
1.

2.

3.

4.

5.



第2学年 音楽科 学習指導案

授業者 春山 陽子

《ICT の活用》

授業の場所	■普通教室 □特別教室 □体育館 □運動場 □その他（ ）
授業形態	□講義形式 ■一斉学習 ■グループ学習 □個別学習
ICT 活用の場面	■導入 ■展開 □まとめ
ICT 活用人	■指導者 ■児童 □その他（ ）
ICT 活用の目的	■資料の提示(指導者) □資料の提示(学習者) □自分の考えをまとめる ■グループの考えをまとめる □他者との考えの比較・交流 ■学習内容を調べる □自分の考えを表現する □学習の振り返り ■記録(写真・動画等) □プレゼンテーション等の作成
活用機器	■電子黒板 ■指導者用タブレット端末(iPad) ■児童用タブレット端末(iPad) □その他（ ）
活用コンテンツ等	○ 学研電子事典 ○ PowerPoint ○ 動画ファイル
ICT 活用のポイント	○ 電子黒板で資料を提示することにより、学習課題を明確にする。 ○ 電子黒板や iPad を使って、動画を映し出したり、音を聴いたりすることで、イメージを持ちやすくし、学習意欲を高める。

1 学年・組 第2学年1組 計26名

2 場 所 2年1組教室

3 単 元 名 「いろいろな音にしたしもう」

4 目 標

- いろいろな音や音色の違いを感じ取ったり、好きな音を探したりして、音に対する興味・関心を持つことができる。
- 音色の違いを生かしながら音の重ね方を工夫して、拍の流れにのって演奏することができる。

5 単元の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
いろいろな楽器の音色に気をつけて音楽を聴いたり、身近な楽器や身の回りの物から音探しをしたりする学習に進んで取り組もうとしている。	いろいろな音や音色の違いを感じ取って、それらが重なるおもしろさを生かそうと音の出し方や組み合わせ方を工夫している。	いろいろな音や音色の違いを生かしながら、拍の流れにのってリズムを打っている。	いろいろな打楽器の音色の特徴を感じ取り、そのよさやおもしろさを味わいながら聴いている。

6 指導計画(全 8時間)

次	時	主 な 学 習 活 動	ICT活用のポイント
1	1	・「森のカーニバル」の曲を教科書の挿絵をもとに、動物たちの様子を想像しながら聴く。	・教科書の挿絵を、電子黒板で提示し、様子を想像しやすくする。
	2	・楽器の音色のおもしろさを味わって聴き、自分の好きな楽器が聴こえたら、演奏するまねをする。	

2	3	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな楽器や音具の中から好きな音をいろいろ見つけ、音の出し方を工夫する。 ・見つけた音を使って、音遊びをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムカードを提示し、全体で共有する。
	4	<ul style="list-style-type: none"> ・「かぼちゃ」の曲を、情景を思いうかべながら歌う。 ・音探して見つけた音で、リズムパートを打つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板で歌詞を提示し、スムーズに覚えられるようにする。 ・電子黒板でリズムカードを提示し、自分のパートをわかりやすくする。
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・「かぼちゃ」の曲の4つのリズムパートを確認する。 ・友だちの発表を聴き合う。 	
3	6	<ul style="list-style-type: none"> ・「虫の声」の曲を情景を想像しながら、気持ちをこめて歌う。 ・虫の声や夜の様子を表す音を見つけて、音作りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・秋の景色や、登場する虫たちの鳴き声を電子黒板で提示し、イメージを持ちやすくする。
	7 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに、生活科の学習で考えた秋の虫が登場するお話の中で聞こえてきそうな鳴き声や音を想像し、音作りを工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板や iPad でお話の動画を提示し、学習課題を明確にする。 ・学研電子事典を使って、いろいろな虫の鳴き声を調べることで、音作りの意欲を高める。
	8	<ul style="list-style-type: none"> ・物語の動画に合わせて、音や鳴き声を演奏しながら発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板でお話の動画を提示し、イメージをふくらませる。
4	9	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器や身の回りにある物から出る音を使って、表現の仕方を工夫できたかを振り返る。 	

7 本時の学習

(1) 目 標

- 音色の違いを生かして、お話に合った音作りを工夫することができる。

(2) 展 開

	主な学習活動	ICT活用のポイント	使用機器・コンテンツ	評価の観点
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ○ リズム遊びをする。 ・お気に入りの音でリズム遊びをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムカードを電子黒板で提示し、全体で共有する。 	電子黒板 ・PowerPoint	【関心・意欲・態度】 ・リズム譜に関心を持ち、楽しんでリズム遊びをしている。 （行動観察）
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時のめあてを知る。 <div>お話に合う音をくふうして作ろう</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板を使って、お話の動画を提示し、学習内容を確認する。 	電子黒板 ・グループで考えたお話 (動画ファイル)	
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ○ お話に合う音を見つけて、音作りをする。 ・グループごとに考えた、虫 	<ul style="list-style-type: none"> ・学研電子辞書を使って、虫 	iPad	【創意工夫】 ・進んで音探しをし、音色の違いを感じ取

	<p>の声を題材にしたお話の中で聞こえてきそうな鳴き声や音を想像し、音作りをする。</p>	<p>の鳴き声を調べ、イメージを持ちやすくする。</p> <ul style="list-style-type: none"> グループでお話の動画をiPadで見ながら、鳴き声や音を流すタイミングを確認していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 学研電子事典 グループで考えたお話 (動画ファイル) 	<p>って音の出し方を工夫している。</p> <p>(行動観察)</p> <p>(発言内容)</p>
まとめ	<p>○ 見つけた音を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 見つけた音の中で、特にイメージにあった音を発表し合う。 			<p>【技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 場面のイメージに合う音を即興的に表現している。 (発言) <p>【鑑賞の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> 友だちの工夫したところを感じ取って聴く。 (演奏聴取)

(3) 板書計画

めあて お話に合う音をくふうして作ろう

音作り

- みの回りのものから音をさがそう。
- 鳴き声に合ったリズムもくふうしよう。
- 友だちときき合おう。

電子黒板

第3学年 総合的な学習の時間 学習指導案

授業者 石井 優子

《ICT の活用》

授業の場所	■普通教室 □特別教室 □体育館 □運動場 □その他（ ）
授業形態	□講義形式 ■一斉学習 ■グループ学習 □個別学習
ICT 活用の場面	■導入 ■展開 ■まとめ
ICT 活用者	■指導者 ■児童 □その他（ ）
ICT 活用の目的	■資料の提示(指導者) ■資料の提示(学習者) □自分の考えをまとめる □グループの考えをまとめる ■他者との考えの比較・交流 □学習内容を調べる ■自分の考えを表現する □学習の振り返り □記録(写真・動画等) □プレゼンテーション等の作成
活用機器	■電子黒板 ■指導者用タブレット端末(iPad) ■児童用タブレット端末(iPad) □その他（ ）
活用コンテンツ等	○ PowerPoint (フラッシュカード) ○ これなあに? ○ SKYMENU
ICT 活用のポイント	○ 前時の復習をテンポ良く行い、集中力を高めるために、PowerPoint のフラッシュカードを使用する。 ○ 興味、関心を高め、外国語の発音やキーセンテンスに慣れるために、辞書のアプリを使い自分に合った辞書を作る。 ○ 学習意欲を高め、協働的な学習を行うために、お互いに問題を出し合う。 ○ 英語に親しむために、自分の作品を電子黒板で写し出し紹介する。また協働的な学習を行うために SKYMENU で友だちの作品を共有する。

1 学年・組 第3学年2組 計28名

2 場 所 3年2組教室

3 単 元 名 「カラーで遊ぼう What color is this?」

4 目 標

- 英語と日本語の違いを通して、言葉の面白さに気付くことができる。
- 英語を使って、友だちとのコミュニケーション活動を楽しむことができる。
- 英語を使った活動を通して、音声やリズムに楽しみながら英語に慣れ親しむことができる。

5 単元の評価規準

言語や文化	コミュニケーション	音声や表現
色の言い方で、英語と日本語の違いを知り、言葉の面白さに気付いている。	“What color is this?” の表現を使いながら、友だちとコミュニケーションを楽しんでいる。	チャンツやゲームを通して、色の言い方に関する表現に慣れ親しんでいる。

6 指導計画（全5時間）

次	時	主 な 学 習 活 動	ICT活用のポイント
1	1	<ul style="list-style-type: none"> • “Who stole the Cookies?” の絵本を聞く。[一斉] • 動物の名前の言い方を知る。[一斉] (rooster, cat, elephant, duck, monkey...) • 辞書を作る[個人] 	<ul style="list-style-type: none"> • 興味、関心を高め、外国語の発音やキーセンテンスに慣れるために、辞書のアプリを使い自分に合った辞書を作る。

	2	<ul style="list-style-type: none"> 動物の名前を英語で答える。[一斉] (What's this? It's a ~.) 単語の発音、キーセンテンスを確認する。[ペア] 	<ul style="list-style-type: none"> 前時の復習をテンポ良く行い、集中力を高めるために、PowerPoint のフラッシュカードを使用する。 学習意欲を高め、協働的な学習を行うために辞書のアプリでお互いに問題を出し合う。
	3	<ul style="list-style-type: none"> “A beautiful butterfly” の絵本を聞く。[一斉] 色の言い方を知る。[一斉] (red, blue, green, yellow, brown, pink...) 辞書を作る[個人] 	<ul style="list-style-type: none"> 興味、関心を高め、外国語の発音やキーセンテンスに慣れるために、辞書のアプリを使い自分に合った辞書を作る。
2	4	<ul style="list-style-type: none"> 色の言い方を英語で答える。[一斉] (What color is this? It's ~.) 単語の発音、キーセンテンスを確認する。[ペア] Butterfly に色をぬる。[個人] 	<ul style="list-style-type: none"> 前時の復習をテンポ良く行い、集中力を高めるために、PowerPoint のフラッシュカードを使用する。 学習意欲を高め、協働的な学習を行うために辞書のアプリでお互いに問題を出し合う。
	5 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> 色の言い方を英語で答える。[一斉] (What color is this? It's ~.) 単語の発音、キーセンテンスを確認する。[ペア] Butterfly を紹介する。[一斉] 	<ul style="list-style-type: none"> 前時の復習をテンポ良く行い、集中力を高めるために、PowerPoint のフラッシュカードを使用する。 学習意欲を高め、協働的な学習を行うために辞書のアプリでお互いに問題を出し合う。 英語に親しむために、自分の作品を電子黒板で写し出し紹介する。また協働的な学習を行うために SKYMENU で友だちの作品を共有する。

7 本時の学習

(1) 目 標

- 色の名前を英語で表現し、英語の音声やリズムに慣れ親しむことができる。
- ゲームを通して、楽しんで友だちとコミュニケーションを図ることができる。

(2) 展 開

	主な学習活動	ICT活用のポイント	使用機器・コンテンツ	評価の観点
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ○ “Action Colors” を歌う。 ・色の言い方に慣れるようにする。 ○ 前時の学習を振り返る。 ・PowerPoint のフラッシュカードを活用し、単語の復習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の復習をテンポ良く行い、集中力を高めるために、PowerPoint のフラッシュカードを使用する。 	電子黒板（指） ・PowerPoint	【音声や表現】 <ul style="list-style-type: none"> ・歌を通して、色の表現に慣れ親しんでいる。 （行動観察）
展 開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> みんなに自分のチョウを英語でしょうかいしよう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ ペアで問題を出し合う。 ・問題を出し合いながら、単語の発音やキーセンテンスを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語への意欲を高め、協働的な学習を行うために、自分で作った辞書を使い、問題を出し合う。また、楽し 	iPad（児） ・これなあに？	【音声や表現】 この色は何かを、尋ねたり答えたりする表

	<p>○ チョウの紹介をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・習った表現を使いながら友だちに紹介する。 <p>○ クラス全員のチョウをスライドで見る。</p>	<p>みながら英語の音声やリズムに慣れるために、ネイティブの発音を使用し確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語に親しむために、自分の作品を電子黒板で写し出し紹介する。また協働的な学習を行うために SKYMENU で友だちの作品を共有する。自分の作品を電子黒板を使って提示し紹介することで、英語に親しむ。また友だちと作品を共有し、協働的な学習を行う。 	<p>iPad（指）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SKYMENU <p>iPad（指）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノート 	<p>現に慣れ親しんでいる。</p> <p>（行動観察）</p> <p>【コミュニケーション】</p> <p>問題を出し合いながら、友達とコミュニケーションを楽しんでいる。</p> <p>（行動観察、児童の自己評価、相互評価）</p>
まとめ	<p>○ ふりかえりをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートに書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の学習の意欲につなげるために、自分や友だちの良かった点を具体的に書き、共有する。 	<p>iPad（児）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SKYMENU 	

(3) 板書計画

<div style="border: 1px solid black; width: 90%; margin: 0 auto; height: 200px; position: relative;"> <div style="position: absolute; top: 10px; left: 10px; color: gray;">電子黒板</div> </div>	<p>みんなに自分のチョウを英語でしょうかいしよう。</p> <p>それぞれの色は英語で何て言うの？</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 5px;">red</td> <td style="padding: 5px;">blue</td> <td style="padding: 5px;">pink</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">green</td> <td style="padding: 5px;">yellow</td> <td style="padding: 5px;">brown</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">orange</td> <td style="padding: 5px;">purple</td> <td style="padding: 5px;">black</td> </tr> </table>	red	blue	pink	green	yellow	brown	orange	purple	black
red	blue	pink								
green	yellow	brown								
orange	purple	black								

第4学年 理科 学習指導案

授業者 別所 英文

《ICT の活用》

授業の場所	■普通教室 □特別教室 □体育館 □運動場 □その他（ ）
授業形態	□講義形式 ■一斉学習 ■グループ学習 □個別学習
ICT 活用の場面	■導入 ■展開 ■まとめ
ICT 活用者	■指導者 ■児童 □その他（ ）
ICT 活用の目的	■資料の提示(指導者) □資料の提示(学習者) □自分の考えをまとめる ■グループの考えをまとめる ■他者との考えの比較・交流 □学習内容を調べる □自分の考えを表現する □学習の振り返り ■記録(写真・動画等) □プレゼンテーション等の作成
活用機器	■電子黒板 ■指導者用タブレット端末(iPad) ■児童用タブレット端末(iPad) □その他（ ）
活用コンテンツ等	○ ロイロノート (iPad)
ICT 活用のポイント	○ 実験過程を動画で記録し、言葉を加え、結果を伝えるためのわかりやすい資料をつくる。 ○ 実験結果をまとめたり説明したりすることを通して、協働的な学びを行う。 ○ 前時の資料を参考にして、学習内容を視覚的に確認する。

1 学年・組 第4学年1組 計33名

2 場 所 4年1組教室

3 単 元 名 「空気や水をとじこめると」

4 目 標

- 空気を袋や容器に閉じ込めたり、空気鉄砲を作って玉を飛ばしたりする活動を通して、閉じ込めた空気を押し返す力によって起こる現象について、興味を持って調べることができる。
- 空気と水とを比較してそれぞれの体積や押し返す力の変化を調べ、空気および水の性質についての考えを持つことができる。

5 単元の評価規準

自然事象への関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解
閉じ込めた空気や水に力を加えたときの現象に興味・関心を持ち、進んで空気や水の体積や押し返す力の変化を調べようとする。	空気や水の体積や押し返す力の変化によって起こる現象とそれぞれの性質を関連づけて考えることができる。 閉じ込めた空気や水に力を加えたときの変化を比較して、それらの違いをとらえることができる。	容器を使って空気や水の変化を調べたり、ものづくりをしたりすることができる。 空気や水による現象の変化を調べ、記録することができる。	空気を袋の中に閉じ込めたときの手ごたえや、水の中で出すと泡になることから、空気の存在を体積として理解している。 閉じ込めた空気を圧すと、体積は小さくなるが押し返す力は大きくなることや、水は押し縮められないことを理解している。

6 指導計画（全7時間）

次	時	主 な 学 習 活 動	I C T 活 用 の ポ イ ン ト
1	1	・ 空気を袋などに集めたり閉じ込めたりして空気の性質について気付いたことを話し合う。[一斉]	・ 児童の活動の様子を動画や写真で撮影しておき話し合い時に活用することで、学習に対する意欲・関心を高める。
	2	・ 空気鉄砲を使って玉を飛ばしたり、水鉄砲で水を飛ばしたりして、空気と水の違いを体験し、気付いたことを話し合う。[一斉]	・ 児童の活動の様子を動画や写真で撮影しておき話し合い時に活用することで、学習に対する意欲・関心を高める。 ・ デジタルコンテンツ（理科ねっとわーく）を使って、空気と水の違いを視覚的に確認する。
2	3	・ 閉じ込めた空気や水は力を加えるとどう変化するかを予想し、水や空気の性質を調べるための実験を数種類計画する。[一斉]	・ 個々が予想した図や言葉を電子黒板に投影し、全員で共有を図る。
	4	・ 各自、自分が行いたい実験グループに分かれて、水を固い筒などに閉じ込め、その性質を調べる。[一斉・グループ]	・ 実験過程を動画で記録しておき、結果をまとめる時の視覚的な資料として活用する。 ・ 記録しておいた動画に言葉を書きこみ、誰にでもわかりやすい資料を作る。
	5 (本時)	・ 各自、自分が行いたい実験グループに分かれて、空気を固い筒などに閉じ込め、その性質を調べる。[一斉・グループ]	・ 実験過程を動画で記録しておき、結果をまとめる時の視覚的な資料として活用する。 ・ 記録しておいた動画に言葉を書きこみ、誰にでもわかりやすい資料を作る。
3	6・7	・ 考察グループで集まり、それぞれの実験グループの結果をメンバーに説明し、閉じ込めた空気と水の性質を比較しながらまとめる。[一斉・グループ]	・ まとめた資料を使って、動画を見せながら、自分たちの実験結果をわかりやすく説明する。

7 本時の学習

(1) 目 標

- 閉じ込めた空気に力を加え、空気の体積や押し返す力の変化を調べ、動画や言葉などで結果をまとめることができる。

(2) 展 開

	主な学習活動	I C T 活 用 の ポ イ ン ト	使用機器・コンテンツ	評価の観点
導 入	○ 学習課題をつかむ。	・ 前時の閉じ込めた水に力を加えた実験結果を振り返ること、本時の活動内容を意識する。	電子黒板 iPad（指） ・ ロイロノート	
	閉じこめた空気をおすと、空気の体積や手ごたえはどのように変化するのだろうか			
展 開	○ 活動の流れを確認する。 ・ 閉じ込めた空気に力を加えて、空気の体積やその時の手ごたえを調べることを確認する。			
	○ 閉じ込めた空気に力を加える実験する。 ・ 自分が調べたい方法のグループで行う。 ・ わかったことや気付いたこと	・ 実験過程を動画で記録しておき、結果をまとめる時の視覚的な資料として活用する。	iPad（児） ・ ロイロノート	【関心・意欲・態度】 ・ 閉じ込めた空気に力を加え、空気のか

	<p>とは、ワークシートにも図や絵や言葉でメモしておく。</p> <p>○ 結果をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> グループで気付いたことを整理し、実験結果をまとめる。 記録した動画に言葉や記号、印を加えて、報告のためのプレゼンテーション資料を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> グループのメンバーと協力し、記録しておいた動画に言葉などを書きこみ、考察グループで実験結果をわかりやすく伝えるための資料をつくる。 	<p>iPad (児)</p> <ul style="list-style-type: none"> ロイロノート 	<p>さや押し返す力の変化を友達ちと協力して調べようとする。</p> <p>(行動・態度・ワークシート)</p> <p>【思考・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実験してわかったことを動画や写真、言葉でわかりやすくまとめている。 <p>(ワークシート・ロイロノート)</p>
まとめ	<p>○ 実験を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> まとめた記録とプレゼンテーション資料をもとに、同じグループで二人一組になって結果を説明しあう。 	<ul style="list-style-type: none"> 完成した資料をトンネルでメンバーのロイロノートに送り、全員が発表に使えるようにする。 グループでまとめた資料を使い、考察グループのメンバーに実験結果を伝える際にわかりやすく説明する。 	<p>iPad (児)</p> <ul style="list-style-type: none"> ロイロノート 	<p>【思考・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料を使って、順序立てて話すことができる。 <p>(行動)</p>

(3) 板書計画

<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">問題</div>	閉じこめた空気をおすと、空気の体積や手ごたえはどのように変化するのだろうか。
<div style="border: 1px solid black; height: 150px; margin-top: 10px; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <p>スクリーン</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 10px;">計画</div> <p>①とじこめた空気をおす実験 空気の体積？ 手ごたえ？ ↑ ロイロノート（ビデオ）でさつえい</p> <p>②グループで結果をまとめる わかりやすく伝えるくふう</p> <p>③報告の練習</p>

第5学年 国語科 学習指導案

授業者 河野 悦子

《ICT の活用》

授業の場所	■普通教室 □特別教室 □体育館 □運動場 □その他（ ）
授業形態	□講義形式 ■一斉学習 ■グループ学習 □個別学習
ICT 活用の場面	□導入 ■展開 □まとめ
ICT 活用者	■指導者 ■児童 □その他（ ）
ICT 活用の目的	■資料の提示(指導者) ■資料の提示(学習者) □自分の考えをまとめる ■グループの考えをまとめる ■他者との考えの比較・交流 □学習内容を調べる ■自分の考えを表現する □学習の振り返り □記録(写真・動画等) ■プレゼンテーション等の作成
活用機器	■電子黒板 ■指導者用タブレット端末(iPad) ■児童用タブレット端末(iPad) □その他（ ）
活用コンテンツ等	○ SKYMENU ○ Keynote
ICT 活用のポイント	○ プレゼンテーション資料を Keynote で作成することで、分かりやすく提示する。 ○ 出された意見を基に、Keynote でプレゼンテーション資料を簡単に作り直す。 ○ 発表者のプレゼンテーション資料を電子黒板で投影することで、改善した点を全員ですぐに共有する。

1 学年・組 第5学年 1組 計29名

2 場 所 5年1組教室

3 単 元 名 「伝えよう、委員会活動」

4 目 標

- 目的や意図に応じて事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら場に応じた適切な言葉遣いで話すことができる。
- 目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理することができる。
- 引用したり図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くことができる。
- 話し言葉と書き言葉の違いに気付いて話したり書いたりすることができる。

5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	言語についての知識・理解・技能
所属する委員会活動についての情報を整理し、相手に内容が伝わるようにプレゼンテーションしようとしている。	事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫している。	書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理している。 引用したり図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書いている。	話し言葉と書き言葉の違いに気付いて話したり、書いたりしている。

6 指導計画（全9時間）

次	時	主 な 学 習 活 動	I C T活用のポイント
1	1	<ul style="list-style-type: none"> 単元の流れを確認し、プレゼンテーションについて知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導者が作成した Keynote によるプレゼンテーション資料の見本を電子黒板で投影することで、学習への意欲を高める。
2	2	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの委員会活動について、報告したいことをメモに書く。 	
	3	<ul style="list-style-type: none"> 報告することを決め、プレゼンテーション資料のレイアウトを考える。 	
	4		
	5	<ul style="list-style-type: none"> メモを基にプレゼンテーション資料を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> Keynote を用いてプレゼンテーション資料を作ること、資料の提示の仕方を工夫したり、写真や動画、グラフなどを簡単に取り込んで提示したりする。また、何度も作り直したり、資料の順序を入れ替えたり、簡単に作業する。
	6 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> 研究班に分かれ、学習班（委員会のグループ）で作った資料を見せ合い、良い点や改善点を考える。 研究班で出た意見を学習班に持ち帰り、プレゼンテーション資料を完成させる。 どのように資料を作り直したのか発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーション資料を Keynote で作成することで、分かりやすく提示する。 出された意見を基に Keynote でプレゼンテーション資料を簡単に作り直す。 発表者のプレゼンテーション資料を電子黒板を使って投影することで、改善した点を全員ですぐに共有する。
	7	<ul style="list-style-type: none"> 発表原稿を作り、プレゼンテーションの練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> iPad(児)を使うことで、全員がそろわなくても、発表原稿ができた児童から各自でプレゼンテーションの練習をする。
	8	<ul style="list-style-type: none"> 学級内で報告会を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習班でそれぞれ作り直したプレゼンテーション資料を電子黒板を使って投影することで、よかったところや改善点を共有する。
3	9	<ul style="list-style-type: none"> 三年生に報告活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> Keynote で作成したプレゼンテーション資料を電子黒板で投影し活動報告を行うことで、三年生に分かりやすく、委員会活動への興味・関心を高める。

7 本時の学習

(1) 目 標

- 作ったプレゼンテーション資料についてグループ間で提示し合い、良い点や改善点について話し合うことができる。

(2) 展 開

	主な学習活動	I C T活用のポイント	使用機器・コンテンツ	評価の観点
導 入	<p>○ 単元の課題及び、本時の課題を確認する。</p> <p>三年生にとって分かりやすい資料になるようグループ間で話し合おう</p>			
展 開	<p>○ 他の委員会とペアになり、意見を交流する。</p> <p>・学習班(委員会のグループ)で作った資料を他の委員会の友だちに紹介する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> Keynote でプレゼンテーション資料を提示することで、分かりやすくする。また、何度も繰り返し見る。 	<p>iPad(児)</p> <ul style="list-style-type: none"> SKYMENU Keynote 	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 良い点や改善点を見つけている。(発言)

	<ul style="list-style-type: none"> 資料のよい点や改善点を見つけ、そして改善策を考える。 <p>○ 出された意見を基に話し合い、資料を作り直す。</p> <p>○ 作り直した資料を全体に発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習班ごとに、何のためにどこをどう直したのか発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> Keynote でプレゼンテーション資料を作り直すことで、出された意見や、考え直したところをすぐに反映させたり、資料の順序を簡単に入れ替えたりする。 発表者のプレゼンテーション資料を電子黒板に投影することで、改善した点を全員ですぐに共有する。 	<p>iPad(児)</p> <ul style="list-style-type: none"> SKYMENU Keynote <p>電子黒板</p> <p>iPad(指)</p> <ul style="list-style-type: none"> SKYMENU Keynote 	<p>【書く能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> 聞き手の興味をひくように文章を工夫し、写真や図表などを用いて様子がわかるように資料を書き直している。 <p>(発言・ワークシート)</p>
まとめ	<p>○ 学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 今日の学習を通して分かったことを書く。 			<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今日の学習を通して分かったことを書いている。 <p>(ワークシート)</p>

(3) 板書計画

電子黒板

伝えよう、委員会活動

三年生に委員会活動の内容やわたしたちの気持ちを伝えよう

めあて 三年生にとって分かりやすい資料になるよう、グループ間で話し合おう

資料を見るときに気をつけること

- 報告内容と資料(スライド、写真、図表)は合っているか
- 話の順序は適当か
- 短く分かりやすいタイトルか

直したところ

- 全体の紹介↓具体的な話の順。
- 文を短く。
- 実際に活動している写真。
- 動画を初めに。
- グラフで説明。
- 中身が知りたくなるタイトル。

第6学年 算数科 学習指導案

授業者 笹井 謙・宮坂 美智子

《ICT の活用》

授業の場所	■普通教室 □特別教室 □体育館 □運動場 □その他（ ）
授業形態	□講義形式 ■一斉学習 ■グループ学習 □個別学習
ICT 活用の場面	■導入 ■展開 ■まとめ
ICT 活用者	■指導者 ■児童 □その他（ ）
ICT 活用の目的	■資料の提示(指導者) □資料の提示(学習者) □自分の考えをまとめる ■グループの考えをまとめる ■他者との考えの比較・交流 □学習内容を調べる ■自分の考えを表現する □学習の振り返り ■記録(写真・動画等) □プレゼンテーション等の作成
活用機器	■電子黒板 ■指導者用タブレット端末(iPad) ■児童用タブレット端末(iPad) ■その他（ 書画カメラ ）
活用コンテンツ等	○ Keynote 教材 ○ SKYMENU
ICT 活用のポイント	○ 問題を電子黒板で提示して、問題場面を明確にし、追究意欲を高める。 ○ 電子黒板で見通しやグラフ作成の手順を提示することで、視覚的な情報を確実に共有する。 ○ グループの気づきを iPad でまとめ、共有することで、協働的な学びを深める。

1 学年・組 第6学年1組 計22名

2 場 所 6年1組教室

3 単 元 名 「比例と反比例」

4 目 標

- 比例や反比例の意味を理解することができる。
- 式やグラフを用いて、比例や反比例の特徴を理解することができる。
- 比例関係に着目すると能率よく処理できる事象の多いことを知り、その考えを活用して問題解決することができる。

5 単元の評価規準

関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
身の回りから、伴って変わる2つの数量の関係になっているものを探そうとしている。	伴って変わる2つの数量の関係を考えている。	比例や反比例の関係を表、式、グラフに表すことができる。	比例や反比例の意味がわかり、2つの数量の関係を理解している。

6 指導計画（全11時間）

次	時	主 な 学 習 活 動	ICT活用のポイント
1	1	・身の回りで、伴って変わる2量の変わり方を調べる。	・問題場面を動画で示し、さまざまな2量の変わり方を視覚的にとらえるようにする。
2	2	・表から、伴って変わる2量の関係を調べる。 ・比例の意味を知る。	・SKYMENU を用いて、比例の表について気付いたことを交流する。
3	3	・比例の関係を式に表す。	・SKYMENU を用いて、比例の関係について気付いたことを交流する。

	4	<ul style="list-style-type: none"> 比例の関係をグラフに表す。 	<ul style="list-style-type: none"> 見通しやグラフ作成手順を提示し、視覚的情報を共有する。 SKYMENU を用いて、比例のグラフについて気付いたことを交流する。
	5	<ul style="list-style-type: none"> 比例の関係を表すグラフを読む。 	<ul style="list-style-type: none"> SKYMENU を用いて、比例のグラフについて気付いたことを交流する。
4	6	<ul style="list-style-type: none"> 表から、伴って変わる2量の関係を式に表す。 反比例の意味を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> SKYMENU を用いて、反比例の表について気付いたことを交流する。
5	7	<ul style="list-style-type: none"> 反比例の関係を式に表す。 	<ul style="list-style-type: none"> SKYMENU を用いて、反比例の関係について気付いたことを交流する。
	8 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> 反比例の関係をグラフに表す。 	<ul style="list-style-type: none"> 見通しやグラフ作成手順を提示し、視覚的情報を共有する。 SKYMENU を用いて、反比例のグラフについて気付いたことを交流する。
6	9	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の理解を確認する。 	
7	10 11	<ul style="list-style-type: none"> 比例の考え方を使って、能率的な測定をする。 身の回りにある比例や反比例を探す。 	<ul style="list-style-type: none"> SKYMENU を用いて、比例と反比例について気付いたことを交流する。

7 本時の学習

(1) 目 標

- 反比例の関係をグラフに表し、反比例のグラフの特徴を考えることができる。

(2) 展 開

	主な学習活動	ICT活用のポイント	使用機器・コンテンツ	評価の観点
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 問題に出会う。 <ul style="list-style-type: none"> 面積 12 cm^2 の長方形の横の長さ $x\text{ cm}$ と縦の長さ $y\text{ cm}$ の関係をグラフに表す。 ○ 表を作成し、反比例の関係をグラフに表すことに気付く。 <ul style="list-style-type: none"> ・ x と y の関係を式に表し、x に対応する y を求める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問題場面を電子黒板に提示して、問題場面を明確にするとともに、追究意欲を高める。 	電子黒板 ・ Keynote 教材	【関心・意欲・態度】 ・ 反比例のグラフについて、表や式などを使って調べようとしている。 (行動・発言)
反比例のグラフは、どんなグラフになるか考えよう				
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ どんなグラフになるか、見通しを持つ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 比例のグラフとちがう。 ・ 直線にならない。 ・ 右下がりになる。 ○ 反比例のグラフを作成する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 表の x と y の値をもとに、グラフ用紙に点を打つ。 ・ 点をつないでグラフをかく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見通しを SKYMENU のもそうし機能で表し、グラフの特徴などの視覚的情報について、スムーズに意見交流を行う。 ・ 作成過程を書画カメラで撮影して電子黒板に提示し、全員が確実にグラフをかく。 	電子黒板 iPad ・ SKYMENU 電子黒板 書画カメラ	【数学的な考え方】 ・ 対応する2つの点をグラフに表したとき、その点の集合の特徴をとらえている。 (行動・発言) 【技能】 ・ 反比例する2つの

	○ 反比例のグラフについてまとめる。 ・上と右にのびていく。 ・直線にならず、カーブする。			数量の関係をグラフに表すことができる。 (グラフ用紙)
まとめ	○ 反比例のグラフの特徴について話し合う。 ・グループごとに、いろいろな反比例のグラフをかく。 ・各グループのグラフを比較して、特徴を話し合う。	・グループで作成したグラフと気づきをSKYMENUで撮影・保存し、他のグループと共有し合うことで、反比例のグラフの特徴の理解を深める。	電子黒板 iPad ・SKYMENU	【知識・理解】 ・反比例のグラフの特徴を理解している。 (行動・発言)

(3) 板書計画

電子黒板

反比例のグラフは、どんなグラフになるか考えよう

<問題> 面積が 12 cm^2 の長方形の横の長さ $x\text{ cm}$ と、たて長さ $y\text{ cm}$ の関係をグラフに表そう

横の長さ x (cm)	1	2	3	4	5	6	8	10	12
縦の長さ y (cm)	12	6	4	3	2.4	2	1.5	1.2	1

<見通し>

- ・比例とちがう
- ・直線にならない
- ・右下がり

なかよし学級 国語科 学習指導案

授業者 玉城 明子

《ICT の活用》

授業の場所	<input type="checkbox"/> 普通教室 <input checked="" type="checkbox"/> 特別教室 <input type="checkbox"/> 体育館 <input type="checkbox"/> 運動場 <input type="checkbox"/> その他（ ）
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義形式 <input checked="" type="checkbox"/> 一斉学習 <input type="checkbox"/> グループ学習 <input checked="" type="checkbox"/> 個別学習
ICT 活用の場面	<input type="checkbox"/> 導入 <input checked="" type="checkbox"/> 展開 <input checked="" type="checkbox"/> まとめ
ICT 活用者	<input checked="" type="checkbox"/> 指導者 <input checked="" type="checkbox"/> 児童 <input type="checkbox"/> その他（ ）
ICT 活用の目的	<input checked="" type="checkbox"/> 資料の提示(指導者) <input type="checkbox"/> 資料の提示(学習者) <input type="checkbox"/> 自分の考えをまとめる <input type="checkbox"/> グループの考えをまとめる <input type="checkbox"/> 他者との考えの比較・交流 <input type="checkbox"/> 学習内容を調べる <input type="checkbox"/> 自分の考えを表現する <input checked="" type="checkbox"/> 学習の振り返り <input checked="" type="checkbox"/> 記録(写真・動画等) <input type="checkbox"/> プレゼンテーション等の作成
活用機器	<input checked="" type="checkbox"/> 電子黒板 <input checked="" type="checkbox"/> 指導者用タブレット端末(iPad mini) <input checked="" type="checkbox"/> 児童用タブレット端末(iPad mini) <input type="checkbox"/> その他（ ）
活用コンテンツ等	<input type="checkbox"/> 自作 Keynote 教材
ICT 活用のポイント	<input type="checkbox"/> 電子黒板や iPad mini を使って、行を注視しながら読むことができる。 <input type="checkbox"/> 練習している様子 iPad mini でビデオ撮影し、振り返ることで、意欲を持って取り組むことができる。

1 学年・組 なかよし学級 計3名

2 場 所 プレイルーム

3 単 元 名 「詩を よもう」

4 目 標

◎ 全員 友だちの前で、笑顔で発表することができる。

○ A児 字を読み飛ばさずに音読することができる。

○ B児 行を飛ばさずに音読することができる。

○ C児 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。

5 単元の評価規準

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
詩に興味を持ち、進んで発表している。 詩の内容を言葉や絵で進んで表現している。	相手に聞こえる声で話そうとしている。 友だちの発表を、興味を持って聞いている。	詩を丁寧に書いている。正しく書いている。 想像した内容を、文を書いたり、絵を描いている。	それぞれの目標に合わせて、絵と言葉をつないで意味をとらえ、音読している。 詩を読んで、内容を言葉から想像しながら読んでいる。	詩の言葉の意味を理解している。 文字と音節の対応に気付いている。

6 指導計画（全5時間）

次	時	主 な 学 習 活 動	I C T 活用のポイント
1	1 2 3 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> 様々な詩をよむ。 自分で選んだ詩をよむ。 詩を書き写す。 詩の世界の絵本を想像して表現する。 詩を音読する。 	<ul style="list-style-type: none"> iPad miniの自作Keynote教材を使うことで、行を注視しながら読むことができる。 練習している様子を iPad mini で撮影し、見て振り返ることで、意欲を高め、次の目標を持つことができる。

2	4	<ul style="list-style-type: none"> 音読発表会の詩を選ぶ。 音読発表会のポスターを作る。 選んだ詩の音読練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 今までの発表の様子を iPad mini で確認することで、意欲を高める。 iPad mini の自作 Keynote 教材を使うことで、行を注視しながら音読することができる。 発表の様子を撮影し、見て振り返ることで、音読発表会への意欲を持つことができる。
	5	<ul style="list-style-type: none"> なかよしタイム（特別支援学級の児童が週に1時間集まって活動する時間）で、音読発表会をする。 自分の選んだ詩をみんなの前で発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表するときに、自分で書いた詩のプリントを投影する。 発表の様子を撮影し、見て振り返ることで、意欲を持つことができる。

7 本時の学習

(1) 目 標

- ◎ 全員 友だちの前で、笑顔で発表することができる。
- A児 字を読み飛ばさずに音読することができる。
詩を正しく書き写すことができる。
- B児 行を飛ばさずに音読することができる。
詩を正しく書き写すことができる。
- C児 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。
詩を読んで想像したことを絵や言葉で表現することができる。

(2) 展 開

	主な学習活動	I C T活用のポイント	使用機器・コンテンツ	評価の観点
導 入	<ul style="list-style-type: none"> あいさつをする。 あいさつのうたをみんなで歌う。 	しを よもう		【関心・意欲・態度】 <ul style="list-style-type: none"> 進んで発表している。 進んで詩を選んでいる。 （行動観察）
	<ul style="list-style-type: none"> 今日の詩を選ぶ。 自分で今日取り組む詩を選ぶ。 			
展 開	<ul style="list-style-type: none"> 選んだ詩を書き写す。 情景を表現する。 A児 B児 詩を書き写す。 C児 詩を書き写す。 詩の情景を思い描く。 言葉や絵で表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自作コンテンツを使って教材文を焦点化することで、字を追いながら音読することができる。 自作コンテンツを使って教材文を焦点化することで、 	iPad mini ・Keynote	【書く能力】 A児B児C児 <ul style="list-style-type: none"> 正しく詩を写し書きしている。（プリント） C児 <ul style="list-style-type: none"> 詩の情景を想像し、言葉や絵で表現している。（プリント） 【読む能力】 A児 B児 <ul style="list-style-type: none"> 行を飛ばさずに読んでいる。 （行動観察）
	<ul style="list-style-type: none"> 音読の練習をする。 A児 字を読み飛ばさずに音読する。 B児 行を飛ばさずに音読するこ 		iPad mini ・Keynote	

	とができる。 ・ C児 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読する。	行を注視して音読することができる。		C児 ・ 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。 (行動観察)
まとめ	○ 音読の発表をする。 ・ 今日練習した詩を音読する。 ○ 本時の学習を振り返る。 ・ 自分たちの様子を見て振り返る。	・ 児童が書き写した詩や情景を思い描いたものを、電子黒板に映し出すことで、聞いている児童が、興味を持って友だちの発表を聞くことができる。 ・ 本時の活動の様子を撮影した動画を電子黒板に映し出すことで、自分たちのがんばりを認め合い、次への活動の意欲を持つことができる。	電子黒板 iPad mini ・ Keynote 電子黒板 iPad mini ・ 動画	【関心・意欲・態度】 ・ 進んで発表している。 【話す・聞く能力】 ・ 相手に聞こえる声で話そうとしている。 ・ 友だちの発表を、興味を持って聞いている。 (行動観察)

※自作 Keynote 教材出典

『のはらうたⅠ』 工藤直子 童話屋

『音読詩集 感性をみがき 言葉の美しさに気づかせる じゃんけんぽん1』 文溪堂

『音読詩集 感性をみがき 言葉の美しさに気づかせる あくしゅ2』 文溪堂

『音読詩集 感性をみがき 言葉の美しさに気づかせる かけっこ3』 文溪堂

(3) 板書計画

電子黒板	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="text-align: center;"> ☆しを よもう </div> <div style="text-align: center;"> よむとき ・ ぴた・ぴん </div> <div style="text-align: center;"> きくとき ・ みる </div> <div style="text-align: center;"> がんばりさん ぜんいん はなまる ◎ </div> </div>
------	---